和歌山県　資料提供
令和８年１０月３０日

知らないオドロキが色々色々
聖地リゾート!!!!!
Seichi Resort WAKAYAMA
和歌山

病害虫発生予報 第８号（１１月予報）について

令和８年度病害虫発生予報　第８号（１１月予報）を別添のとおり発表します。

（補足）

県農作物病害虫防除所では、植物防疫法に基づき、有害動植物の防除を適時で経済的なものにするため、気象、農作物の生育状況、有害動植物の発生調査の結果等を分析し、有害動植物の発生予察及び防除対策に係る情報（発生予察情報）を提供しています。

「病害虫発生予報」は病害虫の発生予測及び防除情報を定期的に発表するもので、本県の場合は４～11 月に月１回発表しています。

（連絡先）

担当課室	鳥獣害対策課	農作物病害虫防除所
担当者	直川	岡本
電　話	073-441-2905	0736-64-2300

令和８年度

病害虫発生予報　第８号（11月予報）

和歌山県農作物病害虫防除所

＜予報の概要＞

作物名	病害虫名	発生量	作物名	病害虫名	発生量
エンドウ	褐斑病、褐紋病	やや少	野菜・花き全般	シロイチモジヨトウ	県北部：並 県中部：多
	うどんこ病	並		ハスモンヨトウ	並
	つる枯細菌病	並		オオタバコガ	県北部：やや少 県中部：やや多
	ハダニ類	やや少			
	ウラナミシジミ	並			
ハクサイ キャベツ	黒斑細菌病	並	カンキツ	果実腐敗病	やや多
	アブラムシ類	やや少		ミカンハダニ	やや多
	コナガ	並		カメムシ類	並
	ヨトウガ	やや少			

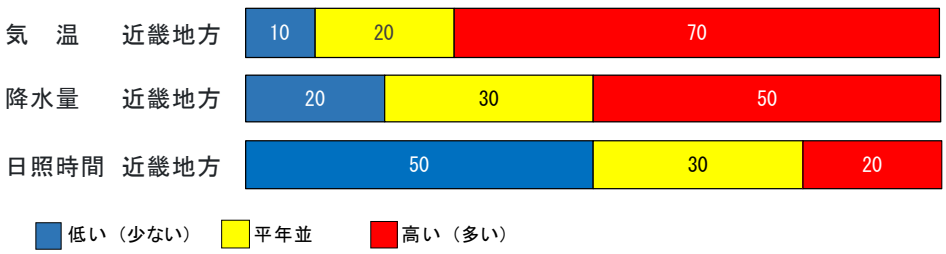
気象予報

近畿地方　１か月予報（10/24～11/23）

2026年10月22日14時30分 大阪管区気象台 発表

特に注意を要する事項		期間のはじめは、気温がかなり高くなる見込みです。
向こう1か月 10/24～11/23	天候	近畿日本海側では、期間の前半は、天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。期間の後半は、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。近畿太平洋側では、天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。
	気温	平均気温は、高い確率70%です。
	降水量	降水量は、多い確率50%です。
	日照時間	日照時間は、少ない確率50%です。
1週目 10/24～10/30	気温	1週目は、高い確率80%です。
2週目 10/31～11/06	気温	2週目は、平年並または高い確率ともに40%です。
3～4週目 11/07～11/20	気温	3～4週目は、高い確率60%です。

向こう１か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）



Ⅰ．野菜・花き

＜エンドウ＞

1．褐斑病、褐紋病

(1) 予報内容　　発生量　やや少

(2) 予報の根拠

① 県中部の露地栽培における10月下旬の発生ほ場率は0%（平年：発生ほ場率15%、発病葉率0.5%）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 多湿ほ場で発生しやすいので、排水を良くする。

② 施設栽培では、降雨が多いと予想される場合は早めにビニル被覆を行う。

③ 薬剤の予防散布に努める。

④ 種子伝染するので、発生ほ場では採種しない。

2．うどんこ病

(1) 予報内容　　発生量　並

(2) 予報の根拠

① 県中部の露地栽培における10月下旬の発生ほ場率は0%（平年：発生ほ場率4%、発病葉率0.1%）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 施設栽培では、低温期でも乾燥すると発生しやすい。

② 下位葉に病斑を認めたら薬剤散布を行う。

3．つる枯細菌病

(1) 予報内容　　発生量　並

(2) 予報の根拠

① 県中部の露地栽培における10月下旬の発生ほ場率は0%（平年：発生ほ場率1%、発病葉率0.02%）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 本病は、褐斑病、褐紋病と葉の病斑が似ているので注意する。褐斑病、褐紋病の病斑は日光に透かしても不透明であるのに対し、本病は光が透けて見えることで区別できる。

② 防風ネットは予防効果が高い。

③ 種子伝染するので、発生ほ場では採種しない。

4．ハダニ類

(1) 予報内容　　発生量　やや少

(2) 予報の根拠

① 県中部における10月下旬の発生ほ場率は20%（平年22%）、生息株率は2.0%（平年9.5%）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 薬剤散布にあたっては薬液が葉裏に十分かかるように行う。

5．ウラナミシジミ

(1) 予報内容　　発生量　並

(2) 予報の根拠

① 県中部における10月下旬の被害発生ほ場率は70%（平年71%）、被害株率は21.0%（平年26.6%）であった。被害さや率は10.2%（平年9.4%）、1花あたりの産卵数は0.41個（平年0.26個）であった。

② 11月の気象予報による。
(3) 防除上考慮すべき諸点
① 食入加害されたさやは、ほ場の外に持ち出し処分する。
② 主な産卵部位である花や蕾に薬液が十分かかるよう、7～10日間隔で防除を行う。

＜ハクサイ、キャベツ＞

1. 黒斑細菌病
(1) 予報内容　　発生量　並
(2) 予報の根拠
① 県北部のハクサイ、キャベツにおける10月下旬の発生ほ場率はいずれも0%（平年：ハクサイ0%、キャベツ0%）であった。
(3) 防除上考慮すべき諸点
① 降雨前に薬剤を予防散布する。

2. アブラムシ類
(1) 予報内容　　発生量　やや少
(2) 予報の根拠
① 県北部のキャベツにおける10月下旬のモモアカアブラムシの発生ほ場率は0％（平年：発生ほ場率22%、生息株率3.0%）、ニセダイコンアブラムシの発生ほ場率は0%（平年：発生ほ場率27%、生息株率6.2%）であった。
② 黄色水盤（紀の川市）への10月1～20日の飛来数は、13頭（平年42.7頭）であった。
(3) 防除上考慮すべき諸点
① 薬剤散布にあたっては薬液が株元の葉裏に十分かかるように行う。

3. コナガ
(1) 予報内容　　発生量　並
(2) 予報の根拠
① 県北部のキャベツにおける10月下旬の発生ほ場率は0%（平年：発生ほ場率7%、10株あたり生息密度0.0頭）であった。
② フェロモントラップによる10月1～20日の誘殺数は、和歌山市14頭（平年64.5頭）、紀の川市0頭（平年0.2頭）であった。
③ 11月の気象予報による。
(3) 防除上考慮すべき諸点
① 薬剤抵抗性の発達を遅らせるために、同一系統の薬剤は連用しない。

4. ヨトウガ
(1) 予報内容　　発生量　やや少
(2) 予報の根拠
① 県北部のキャベツにおける10月下旬の発生ほ場率は0%（平年：発生ほ場率5%、生息株率は0.5%）であった。
② フェロモントラップによる10月1～20日の誘殺数は、紀の川市1頭（平年7.1頭）であった。
③ 11月の気象予報による。
(3) 防除上考慮すべき諸点
① 発生初期の若齢幼虫の防除に努める。

＜野菜・花き全般＞

1. シロイチモジヨトウ

(1) 予報内容　　発生量　県北部：並
　　県中部：多

(2) 予報の根拠

① 県北部のキャベツにおける10月下旬の発生ほ場率は10%（平年10%）、生息株率は1.5%（平年1.4%）であった。

② 県中部のエンドウにおける10月下旬の発生ほ場率は20%（平年7%）、生息株率2.0%（平年0.7%）であった。

③ フェロモントラップによる10月1～20日の誘殺数は、紀の川市52頭(平年55.6頭）、御坊市166頭（平年95.4頭）であった。

④ 11月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 幼虫が中～老齢期になると薬剤感受性が著しく低下するので、若齢期（ふ化幼虫の集団の食害による白変葉がみられたとき）の防除を心がける。

② 薬剤抵抗性の発達を遅らせるために、同一系統の薬剤は連用しない。

③ 令和8年度病害虫防除技術情報第3号（令和8年10月29日発表）を参照する。

2. ハスモンヨトウ

(1) 予報内容　　発生量　並

(2) 予報の根拠

① 県北部のキャベツにおける10月下旬の発生ほ場率は10%（平年28%）、生息株率は0.5%（平年4.0%）であった。

② 県中部のエンドウにおける10月下旬の発生ほ場率は20%（平年21%）、生息株率は3.0%（平年3.4%）であった。

③ フェロモントラップによる10月1～20日の誘殺数は、和歌山市2,927頭（平年2,597頭）、紀の川市491頭（平年1,188頭）、御坊市4,027頭（平年3,408頭）であった。

④ 11月の気象予報による。

⑤ 令和8年度病害虫防除技術情報第3号（令和8年10月29日発表）を参照する。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① シロイチモジヨトウに準ずる。

3. オオタバコガ

(1) 予報内容　　発生量　県北部：やや少
　　県中部：やや多

(2) 予報の根拠

① 県北部のキャベツにおける10月下旬の発生ほ場率は0%（平年：発生ほ場率15%、生息株率は1.4%）であった。

② 県中部のエンドウにおける10月下旬の発生ほ場率は60%（平年10%）、生息株率6.0%（平年1.4%）であった。

③ フェロモントラップによる10月1～20日の誘殺数は、紀の川市33頭（平年49.0頭）、御坊市47頭（平年48.4頭）、印南町1頭（平年82.5頭）であった。

④ 11月の気象予報による。

⑤ 令和8年度病害虫防除技術情報第3号（令和8年10月29日発表）を参照する。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 中～老齢幼虫に対する薬剤の防除効果は低いので、若齢幼虫期に防除するよう努める。

Ⅱ．果　　樹

＜カンキツ＞

1．果実腐敗病（緑かび病、青かび病）

(1) 予報内容　　発生量　やや多

(2) 予報の根拠

① 県北部（海南市下津町）、県中部、県南部（田辺市）における10月中旬のウンシュウミカン樹上果実の緑かび病発生ほ場率は37%（平年11%）であった。

② 11月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 樹上の発病果や、これに接触している果実は速やかに除去する。

② 収穫前の薬剤散布を励行する。

③ 果実は丁寧に取り扱い、果面に傷をつけない。

2．ミカンハダニ

(1) 予報内容　　発生量　やや多

(2) 予報の根拠

① 県北部（海南市下津町）、県中部、県南部（田辺市）における10月中旬の発生ほ場率33%（平年18%）、発生葉率は10.0%（平年4.0%）であった。

② 11月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 収穫前の薬剤散布は使用基準に特に留意する。

② 収穫時期まで袋かけを行う品種では袋かけ前に発生状況を確認し、必要に応じて薬剤散布を行う。

③ 薬剤抵抗性の発達を遅らせるため、同一系統の薬剤は年間に2回以上使用しない。

3．カメムシ類

(1) 予報内容　　発生量　並

(2) 予報の根拠

① 紀の川市粉河の予察灯による10月1～20日の誘殺数は、チャバネアオカメムシが67頭（平年715頭）、ツヤアオカメムシが198頭（平年426頭）であった。

② 有田川町奥の予察灯による10月1～20日の誘殺数は、チャバネアオカメムシが809頭（平年268頭）、ツヤアオカメムシが943頭（平年628頭）であった。

③ みなべ町東本庄の予察灯による10月1～20日の誘殺数は、チャバネアオカメムシが196頭（平年506頭）、ツヤアオカメムシが2,582頭（平年6,227頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① ほ場内での発生及び被害状況をよく観察し、発生に応じて防除を行う。

② 発生がみられるほ場で薬剤散布する場合は、収穫期の散布となるので使用基準に十分注意する。

本情報は、下記の方法でもご覧頂けます。

○鳥獣害対策課ウェブページ　〈農作物病害虫防除所〉

https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/072000/d00216368.html

○和歌山県ホームページ　〈わかやま県政ニュース〉

http://wave.pref.wakayama.lg.jp/news/kensei/

※詳しくは、農作物病害虫防除所の各担当までお願いします。

水稲、野菜、花き

本所（紀の川市、農業試験場内）　TEL 0736-64-2300

カンキツ

有田川駐在（有田川町、果樹試験場内）　TEL 0737-52-4320

カキ、モモ

紀の川駐在（紀の川市、果樹試験場かき・もも研究所内）　TEL 0736-73-2274

ウメ

みなべ駐在（みなべ町、果樹試験場うめ研究所内）　TEL 0739-74-3780